

2014年3月6日(木)

ちよだプラットフォームスクウェア 402 会議室

- ◆ 委員長：中澤信夫 副委員長：金子純代（議長） 事務：室橋紅里子 書記：中山遼平
- ◆ 出席者（順不同）：斉藤威 浅野英彦 平井淳一 上松慮生 加藤文弥
- ◆ 開会 19:05
  
- ◆ 大学対抗&U23 マッチレース
  - ・ 3月14-16日の開催に向けて準備中。当委員会から6名が運営協力に行く予定。（中澤）
  - ・ 山崎 JSAF 名誉会長が観戦予定、また河野 JSAF 会長にも依頼中である。（中澤）
  - ・ 3月1、2日に三崎マリンドで開催された大学マッチ練習会で事故が発生した。下マーク回航でのジャイブ時に、江ノ島同盟チーム1名の額にブームが直撃し、救急車で病院に搬送された。幸い重傷とはならなかったものの、今後の練習時には注意喚起が必要である。本件について、JSAF 関係各位に報告した。（中澤）
  
- ◆ キールボートシリーズ相模湾 2104
  - ・ 関係団体との調整が難航し、時間的猶予も少ないため、一昨年のようなシリーズ開催は断念した。（金子）
  - ・ 相模湾で開催されるキールボートレース（ノルウェーフレンドシップレース、復興支援のスマイルレース、相模湾オープンレース、相模湾ヨットフェスティバルなど）への参加艇数が増えるよう、広報に協力していきたい。（金子）
  - ・ 畠山さんと話す中で、相模湾以外の多水域にも活動の和を広げていくことを検討している。例えば、東北や九州などのレースに参加し、様々なセーリング情報の共有を図る。
  
- ◆ 理事会（3月1日）の報告（中澤）
  - ・ 各委員会から事業計画の説明を行った。基本方針は普及、文化、勝利の3本柱となる。
  - ・ 当委員会の26年度予算案について、収入は寄付金、支出は会議費などに加え、ユースマッチの国際競技大会であるユニバーシアド派遣費が認められた。
  - ・ 他の委員会は事業収益を活動資金としており、当委員会も収益の出る事業を検討したい。
  - ・ リビエラマリクラブと葉山ヨットクラブが特別加盟団体に申請中である。
  - ・ 理事会後の二次会で、JSAF でクルーバンク制度を行えないか、という話しがあった。
  - ・ Sport For Tomorrow Programme の案内。2020年のオリンピック・パラリンピックに向けて、JOC が海外でのスポーツ、オリンピックムーブメント推進を目的とし、海外へのスポーツ関連援助、イベントの開催、指導者の派遣・養成などを募集している。

◆ 2014 年度事業計画

- ・ セーリングパーク構想に関する日本財団への助成申請は審査の結果、落選となった。財団担当者からは、教育現場との連携、自然とのふれ合いといった要素を取り入れることをアドバイスされた。（斉藤）
- ・ 東京オリンピックハーバーの建設に向けて、ハーバーの景観や機能を含め、セーリングパーク構想を生かすよう、東京都のオリンピック準備委員会に提言するための準備を進めたい。2014 年 9 月までにハーバーの基本設計は決定される予定である。（斉藤）
- ・ 実際のオリンピック運営に携わるスタッフとして若手を登用、育成する必要がある。（中澤）
- ・ 以前と比較し、学生達がキールボートを身近に感じ始めている雰囲気はある。（加藤）
- ・ クルーを受け入れる側のキールボートチームの意識を変えていく必要がある。（平井）
- ・ 大学マッチ本番でのクルー募集などが増えれば、良い流れになるのではないか。（中澤）
- ・ 当委員会で事業収益を上げて活動資金とするべく、事業のアイデアを募集する。（金子）
- ・ ユニフォームの作成はどうか。（中澤）
- ・ スポンサーの募集やセーリング関連のイベント開催はどうか。（金子）

◆ その他報告事項

- ・ 平成 26、27 年度 JSAF 理事選挙にて中澤委員長が理事に再選された。
- ・ 理事選での票集めや加盟団体／特別加盟団体での票割りなどに関して、選挙方式を見直す必要があると感じた。また選挙期間中、当該委員会活動が停滞してしまう。（中澤）
- ・ 平成 26、27 年度 JSAF 役員推薦候補者に関する案内。
- ・ 1 月にオーストラリア・パースで開催されたウォーレンジョーンズユースレガッタの報告。アジアパシフィックスチューデントカップの優勝により、JYMA や多くの方の支援を受け出場したが、12 チーム中 11 位という結果であった。海外チームと比較し、ビッグボート（38 フィート）でのクルーワークやフィジカルの問題が顕著であった。インカレの次のステップとしてキールボートを考えるとき、望ましいとされる体格に矛盾があり、長期的な視点で日本のセーリング界の課題と感じた。海外選手はディンギーからキールボートまでシームレスに乗りこなしているイメージであった。（加藤）
- ・ マッチレースにおけるクルー体重の世界基準は大体 80kg である。（平井）
- ・ 外洋会議の概要が J-Sailing に記載されている。（斉藤）
- ・ 2016 年に和歌山で開催される J/24 世界選手権について、海外のトップセーラーが参加できるよう比較的新しいチャーターボートを揃えたいが、現在難航している。大会スポンサーの募集も平行して進めている。（上松）
- ・ 4 月より当委員会の連絡調整担当を室橋さんから加藤さんに変更する。

◆ 閉会 20:40

- ◆ 次回委員会の開催日：未定。決定次第、web 公開及びメール配信します。